福島県立白河高等学校　17 歳

51　「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 真船加奈

東日本大震災は、日本にあらゆる面で大きな被害をもたらしました。特に、私の住む福島県は、福島第一原子力発電所事故による未曽有の被害を受けました。原発事故からまもなく四年が経過しようとしている今も、原発事故終息の目処が立っていません。また原発事故後の観光客数の減少や風評被害など、福島県が復興するためには、たくさんの課題が残されています。私はこのような状況の中で私たちのような若い世代が福島県を復興へと導いていかなければならないのだと思いました。また、東日本大震災や原発事故を経験した私たちだからこそできることがあると思います。それは、原子力の恐ろしさと人の力ではどうすることもできない自然の脅威を未来へと伝えていくことです。そして、一人一人がこの意識を持てば、必ず復興していけると思います。もう一度、福島県民が福島の復興について考える必要があると思います。

（20 文字 × 20 行）

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名　匿名希望

震災が起こったとき、私は家でのんびりと
住ごしていました。ゆれはじめたときの私は
「地震か。まあすぐに静かになるだろう」と思
いながら揺れが止まるのをじっと待っていた
だけでした。ですが、揺れは止まることなく
勢いはどんどん大きくなり、三十秒たってか
らやっと私は「何か普通じゃない。これはお
かしいぞ」と思うようになり家の外に出ました
。そうしている内に電気が止まり、子供の
泣き声が遠くから聞こえ始めて、私は今の現
状に恐怖しました。ようやく全てがおさまり
ホッとして私は部屋の中にメリ落ちたものな
どを拾い上げて、また「メンドウだな」と思
いながら掃除を始めていました。しかし、そ
のときから既に、いわきでは津波の逃げは始
まっていたのです。夜、テレビがついてから
そこに目を向けると、そこには全てが流され
る影像が、どのチャンネルを回しても再現た
ずっていました。あのときの胸を裂くような
思いは、忘れることができません。

（20文字 × 20行）

福島県立白河高等学校　18歳

53　「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名　松澤浩貴

東日本大震災は先輩の卒業式の直後だった。この日は先輩を快よく送り出し、春休みの楽しみで満ちていた私の心と日常生活を一瞬にして奪っていった。

震災が起きるまで、大きな自然災害は経験したことがなかった。父親は三陸はるか沖地震をし、母親は阪神淡路大震災を経験し、一家で東日本大震災を経験した。家族では3度も大地震を経験していることになるが、目の前の被災状況に私自身何もすることができなかった。今考えれば、できることはたくさんあったと思うが、大自然の力を前に立ちつくすしかなかった。私は父の会社の施設で避難生活を送ったが震災前までは歩いて5分も歩れば食べたい物が食べれた。しかし、震災後は、食料を得るのにも時間がかかり、普通の事が当たり前にできない不便さ・辛さを思い知らされた。

一日という時間を知った今、この経験を忘れずに大切にしたい。

（20文字 × 20行）

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 緑川 慶

私は中学2年生のとき、東日本大震災を経験しました。私が大きな揺れを感じたとき、周りの家の屋根の瓦が落ちてきたり、窓がラスが割れたり、店の看板が落ちてきたりと、普通は起こらないことが起き、危険を感じ、恐怖感を感じたことを今でも鮮明に覚えています。

その震災で起きた原子力発電所の事故は、今でも影響を及ぼしています。私の身の周りでも除染作業など、4年経った今も行われています。そのことで自宅の庭や公園などの草花が失われるなど悲しい想いをしましたが、復興のためには仕方のないことです。ですから、これからまた福島県に美しい自然や、活気がさらに戻ってこれるよう、大学で環境について学ぶので、力になれるようこれから頑張っていきたいです。

これからは福島がさらに復興できるよう、行動していきたいです。

（20文字 × 20行）

福島県立白河高等学校　18 歳

55　「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名　横幕　はるか

私は震災当時、いわき市に住んでいました。産まれて初めての大きな揺れと津波、加えて福島第一原発の事故と、とても現実のことではないように思いました。幸いにも私の住んでいた地域では津波の被害はありませんでしたが、断水と原発事故による外出規制に遭いました。災害に遭って初めて日常生活での当たり前が当たり前でなかったことを知りました。蛇口をひねっても水が出ない、うがっに外に出ることも出来ない。そんな風になるなんて少しも考えていなかったため正直生活がとても厳しかったです。日頃から震災への対策をしていたわけでもなかったので「ああ準備をしておくべきだった」と心から思ったことを今でも覚えています。

4年前の震災で、私はいかに準備が大切かを知りました。最近は日本中で多くの災害が起きています。いつ、どこで、誰が次に被災者になるか分かりません。いつ災害が起きても良いように「準備」をしておきたいです。

（20文字 × 20行）

56　「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 山下 雄也

私は東日本大震災が起きたとき、その日は3年生の卒業式が午前中にあり十二時ごろには家に帰っていたので、友達を呼んで家で遊んでいました。最初、弱めに揺れそこから強く長い地震が来たので、私はすぐ家の中にいた友達を連れ窓から外に出ました。普段地震が来ても立っていたならば、気がつかないこともありますが、その時は立っていても大きな揺れを感じました。駅の方を見ると止まっている車が揺れが強すぎるあまり、独りでに動きだし、電線は長縄のようになっていました。近くの家の瓦が落ちるのも見ました。家の中は、本棚が倒れたり食器が散乱しましたが大きな被害はありませんでした。

現在、復興が進み被害の大きかった地域でも生活が取り戻されてきていますが、仮設住宅もまだまだあります。これから先、より多くの被害にあった方々が震災前と同じ日常を取り戻せるようになることを期待しています。

（20文字 × 20行）

福島県立白河高等学校　18 歳

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 中野嵩大

四年前の三月十一日、中学校の卒業式を終えた私は友達の家で遊んでいました。突然大きなゆれがおこり、本棚からは本がくずれ落ち、食器などが割れ、テレビも落ちてきそうになりました。東日本大震災です。この震災の影響で福島大一原発からの放射線が外部にもれ、私たちは外に出ることができませんでした。この東日本大震災が私たちの生活を大きく変化させました。

四年た、た今でも、まだ震災前のように生活できない人々はたくさんいます。津波の被害により家を失、た人々、放射線の影響で地元を離れなけ丸ばならなくな、た人々など復興が進んでいても現状そのような人々はまだまだいます。厳しい時こそお互いに助け合い共に前に進むことが大事だと思います。私は同じ福島県民としてこれからも震災の影響で生活が厳しい人々のために出来ることはしていき、明るい未来のある福島県にできればと思います。

（20 文字 × 20 行）

教師　59歳

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 高橋正人

ふくしま創生の物語が、今、始まる。
学ぶことこそが、未来を創造する。
学ぶことによって私たちは未来とつながることができる。

震災にも負けず学ぶ瞳があった。避難所となった多くの体育館で寒を寄せ合いながら一冊の教科書をくいいるように見つめていた小学生がいた。被災後の厳しい環境の中で、寒さに凍えながらも、大切にしていた教科書を心の糧として学び続ける高校生がいた。ふくしまの子どもたちにとって、学ぶことは、生きることであった。航海の安全を願う塩屋崎灯台の灯のように、学びが未来を照らし、未来を切り拓いていく。

学びが紡ぐ《ふくしま創生の物語》は、今始まったばかりだが、しかし、学び続ける子どもたちがいる限り、未来は、確かに、ここ《ふくしま》の地に萌(きざ)すと信じてやまない。

（20文字 × 20行）

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 高倉未歩

2011年、3月11日。午後2時46分。私の住んでいた、私の大好きだった浪江町を強い揺れが襲いました。とっさにこたつにもぐりましたが、こたつの外から聞こえてくる物が倒れてきたり、地面が倒れてきたりする音は、当時小学2年生だった私にはとても怖く、先が真っ暗になりました。その日の夜は車で寝泊まりをし、座席は固く寝づらかった、です。

私は、もう大好きな浪江町には戻れないと思うます。どこかに本物の浪江町ではならないけど、浪江町に住んでいた友達が集まれるような場所を造ってほしいです。それが、私が皆が集まって、皆が笑顔になれるような場所を造りたいです。また、復興に向けて、作業をしてくれている人に感謝の気持ちを忘れず生活していきたいです。私の大好きな浪江町が、皆が楽しく住めるような、放射線を気にせず遊べるような公園もほしいです。

（20文字 × 20行）

　氏名 長谷川 奈津

２０１１年、３月１１日。私は、学校で友達と遊んでいました。「ゴゴゴ」強いゆれが続き、とてもこわい思いをしました。少したって、ゆれが弱くなり、友達と２人で、先生の居る方へ行きました。その間、友達と、また強いゆれがおそるのではないかと、少しこわがっていました。

あの震災で、家を失い、友達とも会えなくなり、自分のふるさとへもどれなくなりました。私は、安全なふるさとにしてほしいです。未だに会えていない友達も居ます。帰ってこれない友達も、帰ってこれるような、安心で安全なふるさとにしてほしいです。そして、また、学校で、地域で、元気いっぱいに遊べるようにしてほしいです。

（20文字 × 20行）

61　「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 木村りり

へいせい23年3月11日、午後2時46分わたしの町に大きな強いじしんがおきました。

とうじ、わたしは、市内のほいくえんにいました。大きなゆれと、ものが上からおちてくるこわさを今でもおぼえています。

先生がみんなをまとめ「大じょうぶだよ」と声をかけて外にみんなでそなんしました。みんなとつぜんの自しんにびっくりしてないています。わたしも本当にこわかったです。でも、たくさんの友だちや先生がいてくれて本当によかったと今思います。わたし一人だったらこわくてどうしようもなかったし、上からおちてくるものでけがをしていたかもしれません。いつもそばにいてくれる人があたり前と思わず、あたり前の生活にありがとうと思いながら毎日を大じにすごしていかなければならないことに気づきました。

（20文字 × 20行）

須賀川市立第三小学校　8歳

062 「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 いせがわりく

ぼくは、東日本大しんさいを、けいけんしました。とても大きなゆれでこわい思いをしました。

おじいちゃんや、おとうさんといっしょにかでくのために、水をもらいに行ったりしました。

たくさんの家やお店せがこわれたり、大くの人が、なくなったので、ぼくはとてもかなしい気もちになりました。いろいろなたいけんをとおして、手つだいをすることや、ものを大切にすることや、んときょうりょくしてたすけ合うことがだいじなことだと強く思いました。

大しんさいのことをとおしてなにごともあきらめないで前にすすんでいきたいと思います。

須賀川市立第三小学校　10 歳

063 「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 西岡本之助

私は、しんさいの後、子どもたちをしえんするためのプログラムに、たくさん参加してきました。そのほとんどが、自然の中でいろいろな体験するという内容でした。

参加するたびに、たくさんのかたちに、おせわになりました。その方たちのおかげで、いろいろな事を、安心して、楽しく体験することができました。その中には、大学生のボランティアの方もたくさんいました。私は、勉強があるのに大変じゃないかな、と思いました。お母さんに話すと、

「大学生も楽しんでると思うし、勉強にもなっているはずだよ。」

と、言っていました。

この事から、私もしょう来、子どもたちやいろいろな人のためにやくに立ちたいと思うようになりました。だから、かんしゃの気持ををわすれずに、いろいろな人たちを助けられるようにがんばっていきたいです。

（20文字 × 20行）

064「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿

氏名　上田 彩乃

私は、2011年3月11日に、家にいました。
生活をおくっていたその日の放課後ものすご
く大きい地震におそわれました。そのとき私
は、宿題をやっていました。急の
地震にびっくりして出しました。て
たつの中にもぐっていると、ことこかなさはか
らこたえにくくさようした。地震がおさま
ってから、外にでて近所の新妻さんという人
の家のこニーしかウス！　ゆきました。そこで
3〜4時間すごしました。家に帰えってみる
とへやがあらされていました。また、どろぼ
うがはいったようでした。その日、みんなで
すごしたりかたずけしました。その日から、よ
ようい通電バーバのリビングですごしました
水などもでなく、たいへんでした。復
こうの思いは、いわき市、県外ひかりのあ
た、前の町が元どおりたこはれくもどって
ゆくよ不明の人さがわり、いまよりの高に
にもどってほしいそんな気持でいっぱいです
もう大きい地震がおきない災害がこない

（20文字 × 20行）

065「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 金田 周

私は今五年生です。あの大震災を体験したのは一年生の時でした。三月十一日あの日。私は児童館で宿題をしていました。二時四十六分。今まで感じた事のない長い長い強い強いゆれ。つくえの下にもぐり、けんめいにゆれのおさまるのをまちました。先生の指示で、シューズのまま外ににげました。外はちらちらと雪がふり始めとても寒かったです。先生がコートを用意してくれ保育園もにげてきました。ーオの[illegible]。[illegible]
[illegible]をはこんでくれたり、元気のでる歌を歌ってくれました。先生のはげましで勇気づけられ私の気持ちが強くなったのです。あの時の先生はとても心が強く、優しくてもあたたかく私達を守ってくれたのです。あの時の先生にすごく感謝し、私の将来は子供達から「先生」とよばれる職業につきたいと思ったので、三月十一日のようなことがあったら、あの時の先生をお手本として子供達を守れればいいと思います。

（20文字 × 20行）

郡山市立大島小学校　10 歳

066「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 片田 結喜乃

私は大震災の時1年生でした。あの時はおばあちゃんと病院に行っていて行くとちゅうに道路に入えている、木の前にいました。すると、急にすごいいきおいでじしんが来ました。自転車に乗っていた大きいお姉さんが、「だいじょうぶですか。」と声をかけてくれてビクビクしていたおばあちゃんもなんとか立てました。じしんのせいでほうしゃせんが空中の見えない所のあちこちにいっぱい出てきてたいへんでした。

じしんがあったその後、マスクはかかせませんでした。したくなくてもしなくてはいけない。そう思いながら2年～3年ぐらいずっとつけていて、せん量バッチはいつも必らず身につけていました。また、ごはんもみんなといっしょじゃなくてクラスで1人だけ家から麦ごはんをもっていって食べました。

今はだいぶ良くなりましたが外では遊べません。いつかまた外でおもいっきり遊んで、ほうしゃせんを気にせず楽しく遊びたいです。

（20文字 × 20行）

郡山市立大島小学校　10 歳

067 「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 郡司あおい

「ガタガタガタ…ガタガタガタガッシャン」

私が保育園のころでおかつを食べていたときでした。いきなりゆれはじめたので、びっくりしました。そして何より恐しかったのは「チャンチャーン・チャンチャーン」という音です。その音は、午後2時45分ごろに鳴りました。もう、震災の音は思い出したくありません。それも、震度7度ということがまた、心に残っています。この地震で亡くなった人がたくさんいるのです。地震のえいきょうだけではなくしまかい津波にのまれて亡くなった人が何人もいます。こんな悲しい出来事があったのです。私の心では、もうこないでほしいです。お兄ちゃんがそのとき、2年生でまとガラスとかかわれていないか心配でした。しかし、郡山市は福島県の真ん中なので津波はこないので少し安心しました。毎年3月11日なると思い出してしまうからテレビやラジオで1分間の目とうをやるのかなと思いました。

（20文字 × 20行）

郡山市立大島小学校　10歳

068 「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 椎根悠太

3月11日に東日本大しん災がありました。その時ぼくは、ようち園の年長で、ようち園から帰ってきておばあちゃん、おじさん、お母さんと家でいっしょにいる時にじしんが来ました。

じしんが来て家がゆれた時にいそいで家に出ました。家の中ではガシャンガシャンと食器がわれたり、ぶつだんがたおれたりして、とてもこわかったです。

そして、水道のかが出なくなったり、電気が止まったり、よしんが続きました。その時に、水道の水が出てくるようになるのかなと不安になりました。

お母さんに一番大変だったのは、原発だと聞かされました。放しゃ線量のえいきょうで運動会の時間が短くなったり、なかなかプールに入れなかったそうです。

早く放しゃ線量を下げてたくさん外で友達と遊びたいです。

（20文字 × 20行）

郡山市立大島小学校　10 歳

069 「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 藤田颯良

3月11日に、東日本大震災がありました。まだそのころは、ほいくしょにいました。

その時、みんながねている時いきなりじしんがはげしくゆれたのみんなびっくりしました。いろんな物がくずれたり、落ちたりしたのですごくこわいと思いました。その時は、まだ2011年でした。2015年になってもたまにはげしいじしんや、はげしくないじしんがあるのでいつくるか、そわくとします。

2011年お父さんがむかえにきて、家にかえってみると、じしんのゆれで家の中のあちこちがたおれたり、おちたりしていたのでじしんは、ほんとうにこわいなと思いました。その時に1番大変だった事は、水やガス、電気がそのころは、たまに水がでなくなったりして、とみたほいくしょのこうみんかんのすいどうが6リットルのペットボトルに水を入れて、おふろばに入れて、あたためて、おふろに入っていました。電気のブレカーがきれた時、すぐにブレーカーをなおしました。僕は、もうじしんはきてほしくないなとすごく思っています。こんどはじしんがないように、いざとなった時にそなえておきたいです。

（20文字 × 20行）

郡山市立大島小学校　10 歳

070 「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 渡部誠司

ぼくは、あの日たちばな幼稚園から帰って来て、家にいたら、急に強い地震がおこりだし、ちょっと様子を見ながらずっと家にいたら地震は、だんだん強くなるから外へお母さんとおなさんと妹とぼくでにげました。でも地震は、どんどん強くなって行き家の皿がいっぱいわれてしまいました。もちろん郡山市だけじゃなくて福島県それから宮城県、岩手県もひどかったです。福島県の中でとくに、ひどかったのがいわき市です。いわき市は、海があるからつなみが多くの人がしなってしまった。ぼくのおじいちゃんもいわき市にいて、死んじゃうのかなと思ったら寺前に川があって、流されていったからすごくよかったです。

ぼくは、あの日の事をいっしょうわすれません。

ぼくも、ふっこうのために協力につとめていきたい。

（20文字 × 20行）

郡山市立大島小学校　12 歳

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 鈴木純奈

私はあの日、学校で帰りの会の途中でした。いきなり校舎が揺れ始め、教室は混乱の渦でした。その時、一本の放送が入りました。「しかし、校長先生が声を荒げて言いました。「大丈夫です。安心して下さい。学校は崩れません。」

突然起きた緊急事態に泣き出す子もいました。その時私は、他の子と同様に事態を把握できずに机の下にうずくまっていました。

揺れが収まり、友達のお母さん方が迎えにきました。私は車に乗せてもらい、家に向かいました。

私にとってあの日の出来事は、忘れられません。今でも、鮮明に覚えています。あの日の地震は福島に多大な影響を与えました。本当に多くの人が心に傷を負い、福島はある意味有名になりました。

震災の事を忘れずに福島が復興するには一つの方法しかありません。それは笑顔を取り戻すことです。

（20文字 × 20行）

郡山市立大島小学校　12歳

072「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 黒田菜々子

約4年前、グラグラッと校舎が縦や横に強くゆれ、私はあわてて机の下に体をかくした。これが今で言う「東日本大震災」だ。

母は市役所の職員だったのでむかえに姉がかわりにきてくれた。家へむかう道がいつもよりも遠く感じた。家の中に入っておどろいた。れいぞうこがたおれ、クローゼットの中が全部出ていたからだ。変わりに少しの間すんでいたのは、母の妹の家だった。コンビニに行っても食べ物がなく、残っていた甘いおかしでその初日をおえた。福島は地しんだけではなく、原発のばく発もあった。その事を私はよく覚えている。あれから4年。福島はどう変わっただろうか。除染する人を全国から集めたり、私の目で見える復興が進んでいる。でも、これじゃあだめだ。と私は思う。みんなが、少しずつ忘れかけてきている。広島の原ばくと同じで、語っていかなければならないのだ。この東日本大震災を「あの震災で」と私が語れるようになろうと強く思う。

（20文字 × 20行）

郡山市立大島小学校　12 歳

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　　氏名 太田 安彦

私は東日本大震災が起きた時、学校にいました。もう帰宅の時間になり、帰りの会をしていたその時でした。突然ガタガタという音がなってだんだんとその音が大きくなっていきました。教室の端はおちおちしながらも、先生の指示を聞いて机の下にもぐりこみました。急いで校庭にでていきました。家がラくなどは年に一度あることはありませんでした。しかし私の住んでいるところでは水道が一度使えなくなり、川から水をくんでくる人までいました。これは大変だとすごく思っていました。あちこちでは、何万人という人が行方不明や死者となっていると報道されていたのも知りました。これを聞いたら、自分のことなんてすごくちっぽけに思えてきました。

人々の悲しみはかりしれません。大切な人をなくした人は心の穴がぽっかりとあいたことでしょう。だから、ほんの少しでもその穴を私にできることでうめてあげたいです。

（20文字 × 20行）

郡山市立大島小学校　12 歳

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 大塚 晴

あの日、私に大きなゆれと共にきょうふがおそいました。いままでにないような揺れの中、校庭になんしていた自分がいました。その後体育館に移動し、ストーブにあたって温まり、お母さんのむかえを待ちました。

その後、大変なことがおきました。それは原子力発電所の爆発。この爆発で放射線が出て、多くの人々がひばくしました。私もその一人です。

このような事によって、多くの死者、ゆくえ不明者、そしてたくさん民が出て、多くの人々が心を痛め、悲しみました。それでも人々は心の中に大きな力を持ち、一歩一歩歩き始めました。今、私達は復興のためにいろいろなことを行なっています。募金活動、除染のボランティア、がれきの撤去、仮設住宅の建設など、他にもたくさんあります。

私は、この東日本大震災で多くのことを学びました。だから、今の私達がこのことを多くの子孫に語りつがねばと私は思います。

（20文字 × 20行）

郡山市立大島小学校　12 歳

75

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名　伊藤　梨花

私は東日本大震災の時に学校に居ました。帰りの準備をしているとき地震がありました。急にゆれはじめて、最初は何がおきたのかよく分かりませんでした。私はこの震災がおきるまで地震や震災、津波などの言葉はよく分からず、知ることもありませんでした。

家に帰ると、時計がおちていてたなから物が落ち、大変なことになっていました。夕方になり電気をつけようとすると、電気もつかなくてとても困りました。その後津波があったことを知りました。郡山にはなかったですが、他の地域ではもっと大変だったんだと思いました。家族をなくし、そして家も津波に流されてしまった人は私達以上にかなしいかもいをしているので、亡くなった家族はもどりませんが家や今までの暮らしが早くもどれればいいと思います。

（20文字 × 20行）

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 阿部翔平

福島県や宮城県で大地震がおきました。ぼくは、その時、学校の2年生でお帰りの会をやっている時でした。最初は「風がきた」と思ったくらいだったが5秒くらいたったら、「グラン」ときたのでびっくりしました。

家に帰ったら、タンスが大変なことになっていました。服が全部出ていてたおれているのです。皿がしっかり2つ割れていましたがうちはそれほどへいいひがいがなかったので良かったです。ぼくの家は大丈夫でしたが「相馬」や「浜通り」はとてもひどく津波が来てとてもひどい被害があり、亡くなる人も少なくなかったそうです。

ぼくは、大人になったらJRに入りたいですが、災害があったらボランティアに少しでも役にしてその時ひどい災害をうけた人の手だすけをしてあげたいと、思います。

地震があって原発が爆発し、放射能が飛びちりました。ぼくはこれからも放射能に気をつけて生きていきたいと、思います。

（20文字 × 20行）

郡山市立大島小学校　12 歳

77　「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 鈴木優太

ぼくが東日本大震災にあったときは小学二年生の三学期でした。それから三年九か月がたって今は六年生になりました。震災当時から見ると、除染がだいぶ進み外で活動できるようになりました。しかし、まだふるさとにもどれず仮設住宅で暮らしている人がたくさんいて、復興はまだまだなんだなと思いました。でも県外の人たちに助けてもらったり、自衛隊にたくさん助けてもらったので、今度は自分たちが頑張らなくてはいけないと思いました。助けられてばかりではなくて自分たちの力でがんばれば、復興も進んでいつか元通りになって平和に暮らせるようにしたいとぼくは思いました。

（20文字 × 20行）

郡山市立大島小学校　12歳

'18　「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 高済夏乃

3月11日の東日本大震災で福島は大変な被害になりました。郡山市も震度6弱という大きな地震で、ランドセルが落ちたり、イスがガタガタとなり、地震の音が教室の中をひびかせていました。その時まで聞いたことのなかった「放射線物質が放出して、放射線能の影響で町にもどれなくなり、今も避難していて、仮設住宅で暮らしている人も大勢います。震災直後は店で売っている物が少なくて、大変でした。放射能は消えないので、放射線量を低くするのに取り組むのが大切なんだと思いました。

4年がたち、地震の影響で道路にひびが入り、修理などをしたり、放射能の高い所を除染したり、復興に近づいては来ていると思いますが、まだまだ町に帰れない人たちもいることを忘れずに、みなが安心して暮らせるのが1番と思います。除染が必要な所もたくさんあるので、少しずつ取り組み、東日本大震災の起こる前より良くなってほしいです。

（20文字 × 20行）

'79　「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 渡辺日向大

学校にはいってから、東日本大震災のことをいっぱいはなしました。そのときは津波の怖さなどについてはこわかったけど、ぼくたちは高い所にいたので、ぜんぜんこわくなかったけど、家に帰ってからテレビを見ていたらとてもこわくなりました。そこで毎日毎日テレビを見ていたのでしょうがなくなりました。そこで補強のことをおもいだして机の下にのりました。でもこわくなりました。でもこわくなかったのでけがをしなかったと思います。

その後の生活は、少しの間水がでなかったりしました。でもそのうちに水がちょろちょろでたのでよかったと思いました。だけどその後水がもどってきたりしたので水はけっこうありました。

今後はこれからも家や学校でなにかがあったときにうまくにげられるようにしていきたいと思います。

（20文字 × 20行）

80　「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 岩渕航祐

東日本大震災がおきたときは、学校に行て机の下に入ったけどゆれが強すぎて机ごとゆれました水そうなどが落ちました、そして校ていに出てお母さんをまっていたらこなくて自分で帰りました。

家に帰ってみるとたなやかざっている物がほとんど落ちてました。水などは出たけどがべにひびがはいってなおしてもらったりしていました、それから外であまり遊べたくなったので体力が低下しました。ぼくはその震災がおきてからは、さい玉に行きました、そこで1年住んでそれからまた帰りました。

これからは、もしおきたときに早く治したりできて安べのできる福島にしてほしいと思っています。

（20文字 × 20行）

郡山市立大島小学校　12 歳

81

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 今泉 蓮

1 しんさいがあったとき
2 その後
3 どうようにたのしんだことが

×ぼくは、東日本大震災があった時に、学校で帰りの会をやってました。その後校庭に出てお母さんのむかえをまっていました。

家にかえったらへやの中がぐちゃぐちゃでまどもゆがんであけられないところがありました。その後にぼくは、かぜをひいてしまいました。その時に原発が爆発してしまいました。

一週間くらいたっても余震もあってときどき大きい地震もありました。

今は、原発の所で働いてる人がミスをしてはっぱで早く直してほしいです。

（20文字 × 20行）

 氏名 匿名希望

その日にあったこと

私は、地震のきた時には学校にいて帰りの会をしていました。先生の指示に従って机の下にもぐり、地震がおさまるのを待ちました。

このあとのムるしかったこと

三十分たって地震がおさまったかと思ったらまたよしんがあってすごくたいつんでした。でもその後、よしんがおさまったのでよかったです。

これから、ねがい

その後、苦しかったことは親が居なかった事です。家に帰っても、お兄ちゃんしか居なくてとても不安でした。後、ガスも電気も水もない所、一日をすごすということはとても辛かったです。

これからの希望は、復興です。震災から三年十カ月が経っても、まだ復興ができていないし、倒壊のひがいが多かった所はがれきが多かったけど三年が経って緑豊かな所になってほしいと思います。

（20文字 × 20行）

郡山市立大島小学校　12 歳

83　「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 塩田大悟

大地震は来たとき自分は教室にいました。二日間軽い地震が続き三日目もか。と思ったとき急にゆれが大きくなり先生の机の物が飛びちり放送が聞こえてきました。その後校庭へ避難してその後家に帰ったらあまり物はこわれていませんでした。水道は止まりましたが井戸水があったので大丈夫でした。

あれ以来小さい地震にもびんかんに反応するようになりました。あれから4年たくさんたりました。もう外で遊んだり地震の前と変わらないようになりました。でもまだ避難している人がいたり仮設住宅にいる人もいます。でも復興は年後には完全に消えるそうです。

これからも復興が続いて原発は直されてかんぺきに地震の前と同じ状態になってほしいです。

（20文字 × 20行）

郡山市立大島小学校　12歳

84 「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 鈴木裕規

震災の時ぼくは学校にいました。先生がいなかったけどみんなで机の下にかくれました。かくれてたらあれて先生がとどってきて揺れがおさまったらすぐに外にひなんして親とすぐ下校しました。家の中の物がゆらゆらくちゃくちゃになっていたのでびっくりしました。その後は余震があったけど特に問題ありませんでした。

復興への想いは地震の後原発が爆発して外であんまり遊べなくなったら放射能の不安があるので放射能をなくしてもっと豊かな福島になってもらうためです。

郡山市立大島小学校　12 歳

85 「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 水戸蓮

ぼくは、震災当時学校にいました。そのときぼくは、2年生(小学)でした。いきなり、地震が来ました。ぼく達は、机の下に入って地震がおさまるまで入っていましたがなかなかおさまるまでの時間がけっこう長かったです。地震がおさまってから外にで、帰りをまちました。家に帰って、家の中や家の外の様子を見たら、窓にひびがはいったりしたことがで、二日、三日間は、おおじさんの家ですごしました。またいつ地震が来るかわからないので、4年前にこわれた建物とかを地震にたえられるように整備にしつつ少し地味に直してほしいです。

(20文字 × 20行)

郡山市立大島小学校　12歳

86 「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 関根天音

私は、震災の時はこの大島小ではなくちがう学校にいました。その時私はもう家にいて宿題をしていました。その時いきなり地震が来ました。でも私は「これぐらい大丈夫かな」と思ってかまわず宿題をしていました。その時いきなり大きいゆれがきました。お父さんが「早く外に逃げろ」と言ったので外にいそいで逃げました。そして外にいたらもっと強い地震がきました。私はビックりして泣いてしまいました。そして何分後かに地震はおさまりました。家の中に入ってみると窓ガラスは割れタンスが倒れ他にもひどいじょうたいになってました。水はたまたまでたもののガスはぜんぜんつきませんでした。お店に食べ物を買いに家族で行きましたがほとんど何も売ってませんでした。ガスはつかないのでガスコンロでお湯をわかしほとんどインスタント食品を食べてました。原発が爆発して放射線がいろいろな場所や食べ物についてるのでもっと除染作業をやってほしいなと思いました。

（20文字 × 20行）

郡山市立大島小学校　12 歳

87 「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 渡邊 勇斗

東日本大震災のとき、ぼくはかぜで休んでいました。そのとき、ちょうどおなかがへっていておきていました。するとききなれないおとが、なりはじめました。けいほうきのような音でした。すると地ひびきがなり、地震きました。その時は、体験したことのない地震だ。ったので　とてもこわかったです。さらに原発も爆発しました。とてもこわかったです。

その後、お母さんが、原発がしんぱいだからぐんまに行くよ。といわれました。ひさしぶりなぐんまで、楽しみなのと、いつ帰れるのかという不あんもありました。

これからは、震災も少なく、みんなの笑顔があふれる福島にな。てほしいです。

（20文字 × 20行）

郡山市立大島小学校　12 歳

88　「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 佐藤 優子

私は、東日本大震災当時、福島市の小学校で授業を受けていた。急に激しくゆれ始め、素早く机の中にかくれた。ラジオが台から落ち、いすはたおれた。その光景はまるで地獄だった。

大震災の後、私が住んでいたマンションは水が使えなくなった。満足するほどご飯も食べられなかった。ニュースではいつも地震や放射能の事ばかりだし、それに放射能だからといって外で遊ぶこともできなかった。水が使えるようになっても、満足に生活はできなかった。

これからは、まだ仮設住宅で暮らしている人が楽しく生活できるような日本がいいと思う。福島第一原発の近くに家がある人が早く自分の家に帰り、元の生活に戻る事が一番大切だと思う。

（20文字 × 20行）

郡山市立大島小学校　12歳

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 塩田彩華

地震が起きたのは二年生の時でした。その日は担任の先生がいないし泣き出す人たくさんいるし、皆がパニックになっていて、校庭に避難する時も泣き声がたくさん聞こえてきました。家に帰ってから公民館に避難する事になりコンビニに立ち寄るとたくさん人がいて何も買えませんでした。

公民館にはたくさんの人がいました。公民館にいた3日間は風呂に入れなくて困りました。祖母の家に電話しようとしてもできなかったので公民館にあった公衆電話で連絡しました。水は近くの公園の水道から汲んでそれを飲んでいました。

これから福島県に望む事は、他県から原発の県などのマイナスのイメージで覚えてもらうのではなく、福島県と言ったらコレ!!という物…例えば赤べこや桃、鶴ヶ城など、有名な特産物、民芸品、建造物などプラスのイメージで覚えてほしいです。これから先有名になる物が一つでも福島県から出てほしいです。

（20文字 × 20行）

郡山市立大島小学校

90 「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 比佐 朱里

あの日、私は岩手県にいたので地震はきましたが、それほどのひがいは受けませんでした。ですが、とてもゆれてこわかったし、テレビでつなみの場面がくり返しうつされていたのは、はっきりと記おくにのこっています。

今は、ほとんどの物などがなおって、家がこわれた人も新しい家をたてくらしています。が、そのんたちの心には、まだ悲しみが残っています。

それは、時間を経ても治らないと私は思います。ですが、もうそのような事が起こらないようにすることはできます。なのでこれからは、もう二度とおこしてはいけないあやまちをくり返さないように、日々、にげ道を確にんしたり、その時のために訓練しておけばいいと思います。もう悲しい事を起こしたくないけど、自然の地震にはさからえないのでこちらの人間が気をつければ良いと私は、思います。

（20文字 × 20行）

郡山市立大島小学校　12 歳

① その日のこと

No.1　「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 永山結衣

東日本大震災があった日は、友だちとつくえにこもぐって、「震災だー」とふざけながら、机をゆらしてあそんでいました。そのし、んかんに地震がおきて、びっくりしてました。

今でも、放射線ののこっている所があります。

これからの日本は、原発をなくして、エコで、太陽光発電などをすると、自然たいいと思うからです。

（20文字 × 20行）

郡山市立大島小学校　12 歳

92　「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 黒[illegible]

大震災のときの様子はみんな机の下にかくれました。

家の様子は色々な物がおちていました。

しょっきはわれていなかったので片づけはそこまでむずかしくありませんでした。

震災はとてもたいへんだったことは水の流れがわるかったりしていたので水はあまりのませんでした。

将来のことはあまりしんぱいではありませんどうしてかというとほうしゃせんもそこたで開かなくなったのであまりしんぱいではありません。

（20文字 × 20行）

郡山市立大島小学校　11 歳

93「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 横山碧都

ぼくは、最初いきなり地震がきた時はとてもおどろきました。でもそこまでこわくなかったし外にもでちゃりけなりといわれたけど外ではふつうにあそんでいてべつに地震がきてもぼくの生活は、あまりかわりませんでした。

その後は火などがつかえるようになったしふろにもはいれるようになってとてもよかったです。

ぼくは、きにしていないけどほうしゃのうがまだすこしありこまっている人もいるのでほうしゃのうは、全部なくなってほしいです。

（20文字 × 20行）

94　「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名　補　優羽

私は、東日本大震災があった日は、山梨県にいました。家がゆれた時はとてもおどろいて、不安になりました。あとでテレビを見てみたら、震源地は東北だと言っていて、さらに不安になりました。福島県に、いとこやおばあちゃんが住んでいたからです。電話もなかなかつながらなくて、不安はどんどん大きくなっていきました。

今は、福島に住んでいるからいつでも会えるし、電話もできます。しかし、3月11日から時間が経ったら、放射線のことやひなんしている人のことが大変な問題になってきました。家に帰れなくて仮設住宅で暮らす人や、県外に行った人がたくさんいます。

これからは、そういう人たちが前のように自分の家で安心して暮らせる福島に少しずつもどっていけたらいいなと思います。

（20文字 × 20行）

95　「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 横田 美羽

私は、2年生のときに大地震がおきました。

そのころ、帰りの会をしているときに地震がおきました。初めは、少しゆれただけで、あまり心配することは、あまりなかったけど、後からいきなりゆれが大きくなってきました とても長いゆれでした。そして外に出ました。

外に出ても、ゆれがでていてびっくりしました。雪も降ってきて心配になりました。地震がおさまったころ、お父さんが来て、ランドセルをとりにいって教室の中に入ったら、教室がめちゃくちゃで、いろいろな物が落ちていてすごい地震だったと思いました。家に帰ると、家の中もぐちゃぐちゃですごい、と思いました。水もつかえなくて心配でした。

これからは、食料や水などを多めに買っておいて、いつでも地震が来てもいいようにしていきたいと思いました。

（20文字 × 20行）

郡山市立大島小学校　12 歳

96　「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 松野翔太

6 3月11日2時46分ぼくは学校にいました。学校では、鉄、こつなので少しの荷物が落ちるくらいでした。家に帰ると食器がいっぱい落ちていました。今の郡山のげんじょうは、庭や道路はじょせんはしたものの、とった土などはまだ郡山市や家の庭にうめ立てされたままです。これからは、じょせんして立た土などを早くしょ分してほしいです。しかし原発再か動は賛成です。もともと原発があっていままできたのだからその分の電力をどう補っていくのかぼくは、このデメリットを乗りこえることは出来ると思うけどこれは再か動した方がいいと思います。

（20文字 × 20行）

郡山市立大島小学校　12 歳

97　「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名　吉田　桜

　3月11日、いきなりおきたことでした。何日間か前からよ震がつづいていました。けれどあまり不思議には思いませんでした。3月11日午後2時46分に小さなゆれを感じ、みんな机の下にかくれました。だんだんとゆれはとても強くなっていき、ロッカーのランドセルは落ちゆれはとても長かったです。家に帰ると、食器から食器が飛び出て割れていました。

　その後も食べるものがなく店が閉まる前に急いで買ってきました。水がとまったり、とてもこわい体験をしたと思います。今は、4年前にくらべると、とても復興したと思います。

　けれど東日本大震災がおこる前のようにはなっていないと思います。時間がかかるかもしれないけれど復興に向けてがんばっていきたいです。

（20文字 × 20行）

郡山市立大島小学校　12歳

98

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 宍戸友哉

東日本大震災はぼくが2年生の時（2011年）、3月11日におこりました。地震のせいで水道から水がでなくなったりしました。ぼくの家は電気がきえませんでした。中には、電気がきえたお家があったそうです。大震災がおこってからは、地震についてのニュースがたくさんやっていました。同じようなニュースがいつもやっていたので「くどいなぁ」と思いました。

東日本大震災がおきてからは、放射能が外にたくさんあるということだったので外で遊ぶことができなくなりました。いつもは、外で遊んでいたけれど放射能のせいで遊べなくなったので太ってしまう人がたくさんいたと思います。地震は、いろいろと大変でした。

復興への想いはものすごく強いです。地震のせいでダメな状態になってしまった物とかがあるので。放射能が今でも少しあるので放射能がなくなればいいと思います。

（20文字 × 20行）

郡山市立大島小学校　12 歳

99 「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 笹島 知穂

東日本大震災の時、私は学校にいました。校庭に出たあと、親がむかえにくるのを待ちましたがなかなか来なくて心配でした。家に帰ってみるとタンスがたおれたりしていて、かたづけが大変でした。

3月と夏休みに、一時避難をしました。なれない土地で、知っている人もいなくて大変でしたが、近所の人がいろいろ教えてくれたりして、どちらかというと楽しかったです。

東日本大震災で原発事故や津波など、人がたくさん死ぬようなことがあったので、これからは自分も地震にそなえるようにしたいし、東電とかも気をつけてほしいと思います。

（20文字 × 20行）

100「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募原稿　氏名 伊藤友

ぼくは、じしんがあったときに、血がわれたりして、たいへんでした。

ガス、が、しょくりょうがなくなったりしてたいへんでした。

水もかいせいたいへんでした。

ぼくもたおれたりして、ひけんは、かいだけとれてこしがなくてたいへんでした。

これからじしんや、いろいろなことがなくならないなと思いました。

（20文字 × 20行）